

図書館だより

枚方市立図書館通信第 106 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/citybrand-kyouikubunka/tayori.html>

発行：平成 27 年 10 月 枚方市立中央図書館（毎週金曜日、第 4 火曜日は休館）

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962



写真左上：楠葉図書館おはなし会 写真左：一万個の紙コップアート

写真右：ボランティアさんによるいけばな（つつじ、リンドウ、中菊、ミスカンサス）

9 月も 10 月も中央図書館開館 10 周年記念事業開催中！

一万個の紙コップアート、ひらりんかたりん☆絵本といっしょ

●9 月 9 日に音声字幕付きのバリアフリー映画「いつか読書する日」を上映、雨天にも関わらず 39 人の来場がありました。●9 月 13 日には市内在住アーティスト緒方希さんを講師に「一万個の紙コップアート」を開催、18 人の子どもたちが紙コップの立体造形に挑戦しました。のりもはさみも使わない紙コップアートは記念撮影後、一斉に崩しました！紙コップとは思えない大音響が鳴り響き、それはそれは壮観の一語でした。●10 月 27 日～11 月 9 日は秋の読書週間です。中高生のためのおすすめ本リストを発行し、市内中学生全員に配付します。●10 月 31 日土曜日、中央図書館ボランティア「ひらりんかたりん」さんが、午後 1 時～4 時まで、人形劇や紙芝居、絵本とおはなし、絵本のひろば、ミニ工作を開催します。どなたでも参加できます。

中央図書館開館 10 周年記念事業

ひらりんかたりん☆絵本といっしょ

おはなし会スペシャル

中央図書館ボランティアによる記念行事。申し込み不要。どなたでもどうぞ。

10/31(土)

午後 1 時～人形劇「ぼんたのじどうはんばいき」

午後 1 時 30 分～「ミニ工作」「絵本のひろば」

午後 2 時 30 分～絵本とおはなし

午後 3 時 30 分～大型紙芝居「じごくのそうべえ」

11 月 3 日(祝)は図書館で遠足!?

1. バリアフリー映画上映会

「ゆずり葉—君もまた次のきみへ—」

視聴覚障害者のための字幕・音声解説が付いたバリアフリー映画。どなたでもどうぞ。予約優先、当日参加もOK! 先着 60 名。無料。110 分。

1 回目: 午前 10 時～、2 回目: 午後 2 時～。

10 月 5 日(月)から中央図書館障害者・高齢者サービス担当まで電話またはファクスにて申込み。

受付時間は午前 9 時 30 分から午後 5 時まで。

電話 050-7105-8155 ファクス 050-7105-8152

2. 手話で絵本の読みきかせのワークショップ

午前 10 時 30 分～12 時。対象 20 歳以上。無料。

往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、「手話のワークショップ参加希望」と書いて〒573-

1159 枚方市車塚 2 丁目 1-1 中央図書館障害者・高齢者サービス担当へ。10 月 10 日(土) 必着。

定員 15 人(希望者多数の場合は抽選)

電話 050-7105-8155、ファクス 050-7105-8152

3. その他のイベント

ビブリオバトル、ライブラリー茶会(薄茶とお菓子・実費 300 円)、ミニ・リサイクルブック市、歌と音楽のおはなし会、自動車文庫の新車おひろめ、バックヤードツアーなど。詳細は広報ひらかた 10 月号、枚方市ホームページをご覧ください。

お問い合わせ: 中央図書館

電話 050-7105-8121

ファクス 072-851-0962

ふれあいルーム(絵本で子育て)

■中央図書館 毎週月曜日

■香里ヶ丘図書館 第 1・3(金)第 2・4(木)

■楠葉生涯学習市民センター 第 2・4 火曜日

■菅原図書館 毎週日曜日

■さだ図書館 毎週木曜日(第 3 週は金曜日)

■牧野図書館 毎週金曜日

■津田図書館 第 2・4 水曜日

■御殿山図書館 毎週金曜日

いずれも 10 時～12 時 30 分(楠葉のみ 9 時 30 分～12 時)但し、休館日には実施しません。

ちょっと【本の紹介】

《おのぼり物語》

カラスヤ サトシ/著

竹書房/発行



枚方市出身の漫画家は何人かご活躍中で、この本の著者であるカラスヤ サトシ氏もおひとりである。

以前映画化もされたのであらずじをご存知の方もおられるだろうが、簡単に説明すると『おのぼり物語』というタイトルの通り、大阪での漫画家志望の生活に行き詰まりを感じた著者が単身上京する。予定していた連載がキャンセルになったり、住まい探しに苦労しながら暮らす日々を一生活者の視点で描いている。

他の作品からも言えることだが、この著者は日常の非常に些細な出来事を四コマ作品に仕立て上げる。そして、その四コマの中で描かれる心理描写は、時に強く読者の心に訴える。特に夢や希望を抱いて単身故郷を後にした者なら、この作品の端々に何かしらの共感を持つだろう。(楠葉図書館職員)